

開花エリアが大幅に拡大した

広町田んぼの会（豊田 充）

二十四節気にかかわる「半夏生」当日の7月2日午後、御所谷上流域の谷戸で、ハンゲショウ開花状況を調べました。昨年までの開花域より50メートルほど上流（南東）側に、新しく広い開花域が生まれていて、「白い繚乱（りょうらん）」といった感じに咲き誇っていました。



新旧の開花域は正確には測れませんが、昨年までの1.5倍といった見当です。ハンゲショウの群生地そのものが、それだけ拡大したことを語っています。

日当たりと適度の湿度を求めて広がる

拡大した開花域は日当たりがよく、また、地中の湿度が適度と思われるエリアです。谷戸の南側の山寄りに、過剰な水分供給を防ぐため、水路を設けてありますが、開花密度の濃いエリアは水路の10メートルほど北側まで近づいています。

その水路の壁を補強していた合成樹脂製「畦なみ」が昨年冬、倒れていましたが、自然観察の会の指摘を受け、修復しました。それにより、水路から浸み出していた過剰な水分が遮られ、ハンゲショウの繁殖に好適な地中湿度になったのでしょう。

昨年までは、御所川沿い園路から右折し、カエル池方向に谷戸を横切る通路近くの開花密度が、最も濃かったのですが、ことしはそのエリアの開花はそれほどでもなく、その奥の開花が壮観です。

緑地の指定管理団体である鎌倉広町パートナーズの職員から、「ハンゲショウ以外の草を刈ったほうがいいのかではないか」という指摘を受けました。自然観察の会が毎年9月、このエリアの草を刈っていますが、それに加えて、ハンゲショウ開花時の景観をさまたげる草を5月ごろでも、刈ったほうがいいのか、と思われます。除く対象は、ハンゲショウより高く伸びるアシ、ハンゲショウにからむカナムグラなどで、来夏への課題にしたいと思います。



この開花域から300メートルほど下流の御所川北岸にある枝谷戸、半夏生谷でも数百株のハンゲショウが白く染まり始めていました。花盛りは数日後になりそうでした。

この調査には、田んぼの会の奥田せい子、小坂泰子さんも参加しました。

ヤブカンゾウ、ネムノキも色鮮やかに

御所川沿い園路を上流に向かって歩くと、各所にヤブカンゾウが鮮やかなオレンジ色の花を着けていました。とくに、半夏生谷手前の右手には、10本以上が群落を形成しています。

かならずしも園路沿いでなく、カナムグラが密生する谷戸中央に向かって進出している群落もあります。



園路沿いに幅1メートル程度の草が刈られ、自然観察が貴重な植物を刈らないための保護ゾーンを作業員に示していますが、カナムグラに負けずたくましいヤブカンゾウは、保護しなくてもいいのではないかと思います。

田んぼの会は秋から冬に、山裾沿いの水路の水を3か所で分水させ、中流域のカナムグラ密生地帯

に給水しています。カナムグラの勢いを止めるまでには至りませんが、谷戸中央部に多少の影響が出ており、ヤブカンゾウの増殖との関連にも注目していきたいと思います。

美しい花がもう1種。大エノキのすぐ南西側にあるネムノキの大木です。淡紅色の花が樹形全体を覆うばかりに咲いていました。

